

山間の里・地域力向上セミナーに参加

やまあい

秩父市・埼玉県秩父農林振興センター主催で「中山間地域の魅力を生かし、元気力をつけよう」とセミナーが開られました。

第一部―農産物のブランド化講演では、講師の東京農業大学教授長島孝行氏（皆野町三沢出身）は、平地農業と山間農業の条件の違いを生かした中山間地域ならではの取り組み実例として①カブトエビ農法で無農薬米のブランド化を実現した事例。

②桑の木で、養蚕、シルクの生産、化粧品化、桑の葉を加工した製



品のブランド化などの実例化が講演されました。

第二部では、秩父地域の取り組みの事例として①皆野町立沢地域での埼玉大学の学生と地域の農家による「お散歩畑」「天空の音楽祭」の取り組み②東秩父村で遊休農地に花桃を植栽し、農業所得の向上と地域の景観向上をはかった取り組み③小鹿野町川原沢地区の観光力を活用した取り組み。尾ノ内溪谷の自然環境を活用し、春Ⅱ花、夏Ⅱシャワークライミング、秋Ⅱ紅葉、冬Ⅱ氷柱見学などや伝統行事の取り組みなどが紹介されました。長島教授の講演や、三地域の具体的取組みの中から「いかにその地域の特性を生かし、住民参加で計画をたて継続して取り組む」との重要性を学びました。

常山 知子

“金崎” 町の放送が聞こえない

金崎に住んでいる方から「最近ドクターヘリが来る前に町の放送はあるが放送設備があるのは、長瀬に近い旧一区、二区のみでヘリポートがある旧三区の地元には設置されておらずヘリコプターの音や、数台来るけたたましい救急車のサイレンの音で知ることが多い、何とか町の放送が聞こえるように」と電話がありました。

その旨、役場の担当の方へ、「現在、町は防災無線の切り替えを検討、平成23年度予算で実施設計。

雪の日を選んだわけではないが、朝七時四五分皆野橋を歩く、人が歩くところは雪がシャーベット状になって積もっている。後ろから走ってきた車にバシヤツとシャーベットのかけられる。皆野高校へ向かう生徒たちが集団でやってくる。「気を付けてネ！」と声をかける

なんで皆野橋に歩道橋がないの？

早ければ24年度発注、25年度中に完成予定。その間（一年半）はがまんをして欲しいと言うことでした。「以前にも聞こえないという声が町に寄せられている」担当の方も「ヘリポートの近くに立ってみたい、風向きによって聞こえないことが分かった。一番近いスピーカーの向きを変えたりしたが、ヘリが来るときなど、放送が聞こえないのは不安です。何とか考えて欲しいと伝えました。

と、笑顔が返ってきた。生徒たちが通る間、左右の車はストップ。私もヒヤヒヤしながら隅を歩く。なんで、皆野橋に歩道橋がないの？人も渡る橋なのに！


